

ぱれっとスタッフによる 福祉用語解説

私たちが日常生活で無意識に行なっている意思決定。けれど、『意思決定支援』とは？今回は意思決定支援について解説、お話をしていきます。

●『意思決定支援』とは

障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドラインにはー

・意思決定支援の定義

自らの意思を決定する事に困難を抱える障がい者が、日常生活や社会生活において意思、[※]選好及び価値観に基づき、迷い、修正を繰り返す過程を含め、その意思（思い）が反映された生活を送ることができるよう、本人が意思決定できる状態を可能な限り支えること、とあります。

※選好⇒言葉にならないが見ていれば分かる「好き、嫌い」や「こうしたい」という望みの事

・本人が意思決定できる状態とは？

決定（決める）支援ではなく、誰かと一緒に考えるなど本人の自律性が確保され、選択肢や可能性が閉じられていない、後で変更可能、保留、決定しない状態のこと。

●日常の中の意思決定

私たちが生活する中で、何を食べるか？何を着るか？など無意識に行なっている事も全て意思決定が伴います。ささいな事でも、本人の意思を常に尊重し、意思決定の経験を積み上げる事で、それは成功体験となり、自分で選べたという自信に繋がります。

●人や環境に影響する

意思決定支援は、関わる人や環境に大きく影響を受けます。慣れない、落ち着かない環境では、自分の意思を表現することが難しい事も多いでしょう。

ぱれっとの職員による「福祉用語解説」。今回は『意思決定支援』について解説します。

そうした場合、説明だけではなく実際に経験することで理解できることもあります。実際に体験した上で、自分の意思を決定する過程が意思決定支援には重要となります。

●本人の選択を尊重する

支援する立場からすると、「それはどうだろう？」と思われる選択でも、誰かに迷惑を掛けないのであればその選択を尊重するという姿勢も大切です。

支援する側の目線でリスクばかり考えて、制限をかけ過ぎないような注意も必要です。

●意思決定が困難なとき

どうしても本人の意思を確認するのが困難なこともあります。そうした場合は、家族や支援者など本人をよく知る人が集まって、これまでの本人の生活の様子や表情、行動などの情報を集め、根拠を持ちながら本人の意思を推測することが必要です。

意思を表現できないから、意思がないわけではないのです。どんな人にも意思はあります。それを汲み取るのも意思決定支援です。

●幅広い視点の必要性

普段支援する人や環境が影響を与え過ぎないように家族や知人、成年後見人（※）、相談員など色々な人が本人の立場に立って幅広い視点から本人の意思決定支援を行なう事が大切です。

●まとめ

意思決定支援に大切な事は、本人が何を言いたいのか、何を望んでいるのかを聞くこと、知る事であり、話せる（伝えられる）、話したくなる（伝えたい）関係性をつくり、その環境や雰囲気築いていくことなのだと思います。（おかし屋ぱれっと 納富麻由）